

令和6年度版
札幌市環境白書
- 概要版 -

さっぽろの環境のために 私たちができるコト



札幌市

はじめに

札幌市では、2008年に「環境首都・札幌」を宣言し、市民一人ひとりが地球環境保全に取り組んでいく決意を示すとともに、世界に誇れる環境都市を目指して様々な対策を進めてきました。

しかし、国内外では、地球温暖化が原因と考えられる異常気象や集中豪雨などによる被害が発生するなど、私たちの生活への影響が顕在化しているとともに、脱炭素社会の実現へ向けたエネルギー対策や世界的な人口増加を踏まえた資源の有効活用、生物多様性保全の重要性の高まりなど、環境を取り巻く社会情勢は一段と深刻さを増しています。

次の世代へ豊かな環境を引き継いでいくため、私たち一人ひとりが自らの生活や行動が環境に及ぼす影響を考え、できることから行動していかなければなりません。

第2次札幌市環境基本計画

札幌市環境基本計画は、札幌市環境基本条例(1995年制定)に基づき、環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画です。

2018年3月に策定した第2次札幌市環境基本計画では、近年の環境問題に関する社会情勢の変化に対応するとともに、将来に向けた環境政策の更なる推進を図るため、2050年の札幌の環境の将来像と、2030年までに市民や企業、市民団体、行政等の全ての主体が取り組むべき施策の方向を定めています。



2050年に向けた札幌の環境の将来像

次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市 「環境首都・SAPPORO」

- 市民一人ひとりが積雪寒冷地における生活のあり方を工夫し、改善し続けることで、将来にわたって自然の恵みを守り、札幌らしい豊かな暮らしの文化が根付いている都市
- 産学官民が協力して、地球温暖化対策や生物多様性の保全、持続可能な資源循環など、国や地球規模での環境問題の解決に率先して取り組み、国内外にその取組と魅力を発信している都市
- 北海道の豊富な自然エネルギーや資源を活用することで、エネルギーや製品の地産地消が進み、環境関連産業が発展した北海道内の経済的循環の中心となることが実現している都市

第2次札幌市環境基本計画における 「持続可能な開発目標(SDGs)」 の位置付け

2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、2016~2030年までの15年間で世界が目指す、持続可能な社会の実現に向けた17の目標です。

SDGsには、環境保全のほか、社会問題、経済成長に関する目標も含まれており、様々な課題の同時解決を目指すこととしています。

第2次札幌市環境基本計画では、このSDGsの視点を持って施策を推進するとともに、課題解決のために様々な主体や地域との連携を図っていくこととしています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



関連する主なSDGs



大気汚染物質の1つであるPM2.5は 全ての測定局において環境基準に適合

■微小粒子状物質(PM2.5*)環境基準適合状況(令和5年度)

測定局	環境基準		環境基準 適合状況 (適○・否×)
	〈長期基準〉 年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	〈短期基準〉 日平均値の年間98%値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	
篠路	6.5	16.1	○
発寒	6.0	15.8	○
手稲	5.8	15.5	○
厚別	5.3	13.7	○
北白石	6.1	15.0	○
駒岡	5.6	15.8	○
清田	6.3	16.2	○
北1条	8.5	19.8	○
月寒中央	6.4	15.3	○
南14条	6.1	15.9	○
北19条	8.0	18.0	○
東18丁目	6.3	14.9	○
環境基準値	15	35	-

※PM2.5(微小粒子状物質)とはおおむね粒径 $2.5\mu\text{m}$ 以下の小さな粒子の総称です。肺の奥深くまで入りやすいため、呼吸器系や循環器系への影響が指摘されています。

水質汚濁の代表的な指標であるBODは 15地点全てで環境基準に適合

■市内河川のBOD*の環境基準適合状況(令和5年度)

水域	河川	環境基準点	測定値 (mg/L)	環境基準 (mg/L)	環境基準適合 (適○・否×)
豊平川 水域	豊平川	白川浄水場取水口	1.3	2	○
		東橋	1.2	3	○
		中沼	2.2	3	○
	南の沢川	川沿橋	1.3	2	○
		北の沢橋	1.1	2	○
	真駒内川	五輪小橋	1.3	2	○
		精進川	1.3	2	○
	望月寒川	望月寒鉄北橋	1.6	2	○
		月寒川	1.7	2	○
	厚別川	厚別鉄北橋	1.6	2	○
		野津幌川	2.0	3	○
茨戸川 水域	創成川	北16条橋	0.6	3	○
		茨戸耕北橋	2.4	3	○
新川 水域	夢似発寒川	西野浄水場取水口	0.5	2	○
		新川	2.7	8	○

※BOD(生物化学的酸素要求量)とは、微生物が水中の有機物を生物学的に酸化・分解するために必要な酸素量のことです。数値が高くなるほど汚れていることを示します。

親しめる感じる川や水辺の環境維持のため 環境保全活動を支援しています



札幌市では、身近な環境への関心を高めるため、学校や市民活動団体等が自主的に取り組んでいる水生生物観察会や環境学習に対し、水生生物調査ハンドブックの提供、観察用具の貸出し、職員の派遣等の支援を行っています。



気候変動や防災に関する 出前講座を実施しています

気温上昇による農作物への影響、短時間強雨や台風の大規模化などによる自然災害の発生や熱中症患者の増加など、地球温暖化による気候変動の影響は、既に、私たちの暮らしの様々なところに現れています。

このような極端な気象現象は、世界各所で今後増加していくことが懸念されていることから、温室効果ガス排出量の削減を進めるこれまでの「緩和策」に加え、気候変動の影響に対して、自然や人間社会のあり方を調整する「適応策」を実施していくことが重要です。



札幌市では、市民や事業者等を対象に、気候変動や防災に関する出前講座を実施しています。

私たちに
できるコト

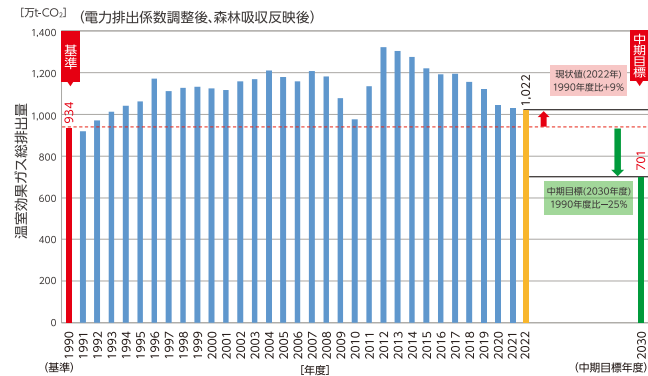
- 自動車を運転する場合は、エコドライブを実践しよう!
- 洗剤やシャンプーを使いすぎないようにしよう!
- 気候変動(異常気象)が及ぼす生活への影響について考えよう!
- 防災用品を揃え、各種ハザードマップを確認しよう!

関連する主なSDGs



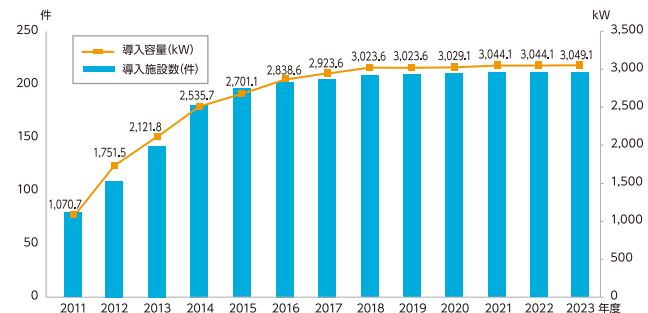
札幌市の温室効果ガス排出量は 減少傾向で推移

■札幌市における温室効果ガス排出量の推移



太陽光発電をはじめとした 再生可能エネルギーの導入を促進

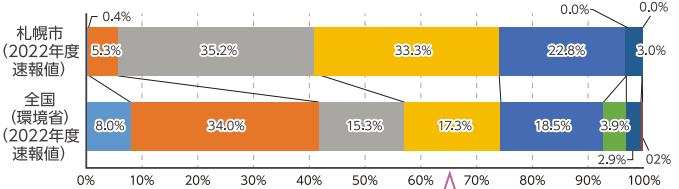
■市有施設の太陽光発電導入状況(累計)



札幌市では、再生可能エネルギーを普及させるため、市有施設への太陽光発電設備の導入を進めています。導入には、初期費用等に課題があるため、現在は初期費用がかからないPPAという手法などを活用し、導入拡大に向け取り組んでいます。導入した設備は光熱費の削減のほか、災害時に利用できる電源としての役割も担っています。また、市民への太陽光発電や家庭用燃料電池などの再エネ・省エネ機器の導入支援として補助制度を運用しています。

家庭・業務・運輸の 3部門で札幌市のCO₂排出全体の約9割を占める

■札幌市と全国との部門別CO₂排出割合の比較(2022年度速報値)

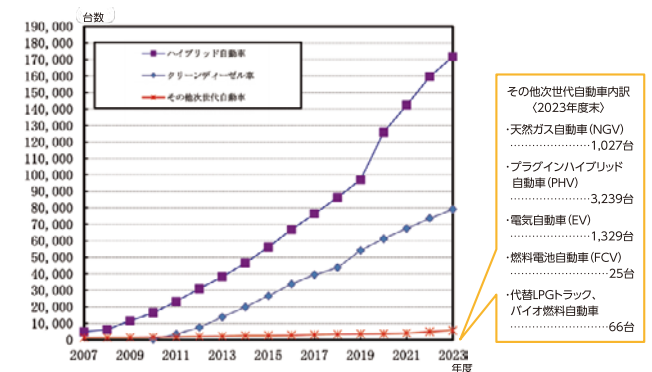


【札幌市で家庭・業務・運輸の割合が多い理由】
・積雪寒冷地につき、家庭における暖房エネルギー消費量が多い
・第3次産業の割合が高い
・日常生活における自動車依存度が高い

※四捨五入のため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

札幌市内における、 次世代自動車の台数は年々増加

■札幌市内の次世代自動車の普及状況(累計)



札幌市では、災害時にも役立つゼロエミッション自動車等(電気自動車、燃料電池自動車、V2H充電設備※等)の購入費用の一部を補助する「札幌市ゼロエミッション自動車購入等補助制度」を運用しています。

※電気を電気自動車等へ充電するとともに、自動車に蓄えた電気を建物へ給電することを可能とする設備

公共交通の利用促進

- 乗換案内サービス「さっぽろえきバスナビ」の提供
- 「地下鉄専用1日乗車券」「ドニチカキップ」の発売
- バリアフリー化の推進 ●交通環境学習の推進

脱炭素型ライフスタイルの促進

- 消費電力量の「見える化機器」の貸出
- イベント等を通じた省エネ家電や省エネ住宅の紹介等
- ビルオーナーや設計事務所を対象とするZEBオンラインセミナーや事業者を対象とする省エネオンラインセミナーの実施
- 脱炭素に関する事業者向け情報発信のため、札幌商工会議所共催「脱炭素セミナー」の実施

私たちに
できるコト

- 電気の無駄な使用を減らし、省エネ製品に意識して切り替えよう!
- 衣服等を工夫して、冷暖房の過剰な使用を控えよう!
- 太陽光発電などの再生可能エネルギーを活用しよう!
- 次世代自動車や公共交通機関を積極的に利用しよう!